

5月26日～①

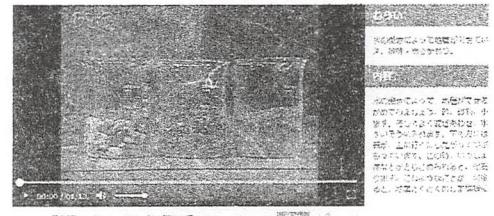
今日の目標 地層のでき方～粒の大きさごとに層をつくることを理解しよう～(1時間目)

第3章では、地層について学んでいきます。小学校5年生の時に「流れる水のはたらき」の授業すでに学習しています。ここではさらに詳しく学んでいきます。

教科書 p230 理科便覧 p86 インターネットで確認する場合は「**地層の**

でき方の実験」と検索すると NHK for school の動画を視聴できます

(参考程度ですので、見なければいけないということではありません)。



教科書 p231

調べよう～粒の大きさによる運ばれ方のちがいや積り方のちがいを調べよう～

①A の実験について:A のような積り方をする場所はどのようなところでしょうか。また水によって遠くまで運ばれるのは大きな粒と小さな粒ではどちらでしょうか。

場所: 遠くまで運ばれる粒:

②B の実験について:B のような積り方をする場所はどのようなところでしょうか。また海まで運ばれた砂と泥ではどちらが先に海に沈むと考えられますか。

場所: 先に沈むのは:

教科書 p232

かたい岩石も長い年月のうちに、気温の変化や風雨のはたらきによってもろくなり()、けずられ()、川などの水の流れによって下流へと運ばれる()。そしてれきや砂や泥は平野や海岸などの水の流れがゆるやかになったところにたまる()。このように地層は主に流れる水のはたらきでできます。

れきや砂や泥は、水の流れがゆるやかになったところに堆積するため、川が山地から平野に出たところでは()が、また平野から海に出たところでは()がつくられます。扇状地と三角州は扇を広げたような形になることが多いです。

教科書 p233

学びを活かして考えよう (教科書 p233 を読んでからやりましょう。プリント前半にある調べよう、の答えも書かれています。)
扇状地と三角州では、どちらがより細かい粒の堆積物でできているか、理由もあわせて説明しよう。

今日の《確認問題》はワークです。

p102 を付属のノートにやって丸つけましましょう。

2年	組	名前
----	---	----

今日の目標 堆積岩のそれぞれの特徴を知ろう(2時間目)

前回のプリントでは、地層のでき方を学びました。流れる水のはたらきによってれき、砂、泥が分別され堆積していきます。今回は堆積した堆積物について学習していきます。

～前回の復習～

○れき、砂、泥の粒の大きさと手ざわり

粒のよび方	粒の大きさ	手ざわり
れき	2 mm以上	ごつごつ
砂	2 mm～1/16(約0.06) mm	ざらざら
泥	1/16(約0.06) mm以下	さらさら

れき、砂、泥の粒の大きさはおおまかに覚えておきましょう。

地層は風化や侵食によってできたれきや砂や泥が運搬されて堆積することができます。堆積にするとときに粒の大きさの関係でしま模様ができます。

教科書 p234

流れる水のはたらきでれき、砂、泥が分別されて堆積します。それらの堆積物は、さらにその上に堆積物が積み重なり、長い年月をかけてかたい岩石になります。このように堆積物が固まってできた岩石を()といいます。

堆積岩にはいくつか種類があります。理科便覧 p87を見て表を完成させましょう。

堆積物	堆積岩	つくりとでき方
泥 砂 れき	細かい あらい	泥岩 海岸から遠く離れた深い海の底や水の流れのゆるやかなところで静かに堆積した泥がかたまってできた岩石。泥岩は頁岩、粘板岩に変化していく。
		砂岩
		れき岩
	石灰質	
	ガラス質	

*表中の「堆積岩の野外での様子」と「こぶし大にくだいたもの」は省略しています。

2年	組	名前
----	---	----